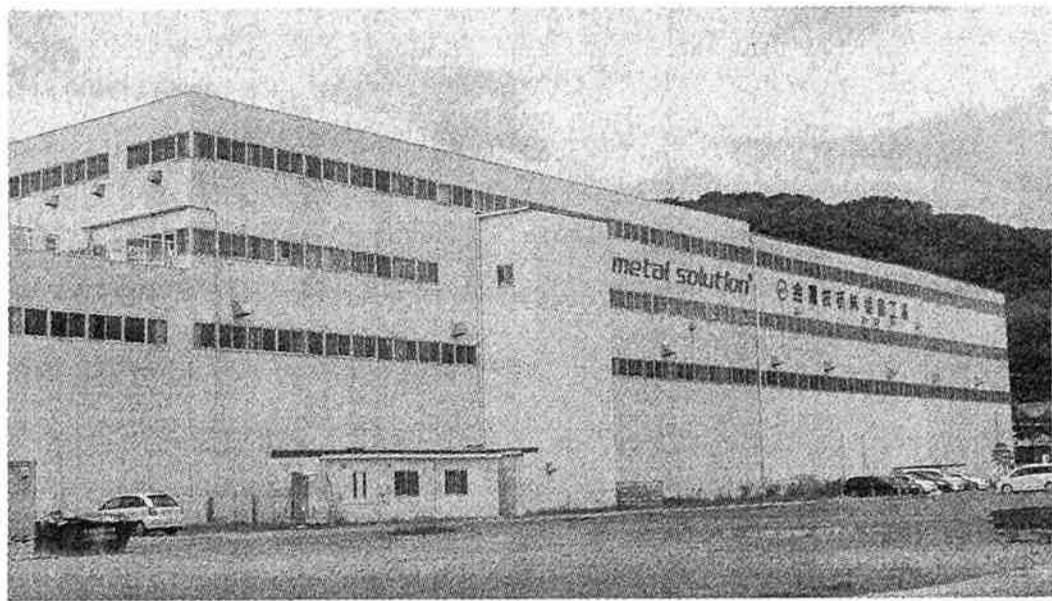


世界最大HIP装置 全容が明らかに

金属技研 姫路工場



姫路工場の外観

88年に稼働した姫路工場は、国内でも屈指の歴史が浅く、もともと航空機工場のサテライト工場としてスタートした経緯がある。しかし、熱処理事業から周辺領域を拡大させた「草分け的な工場」であり、いまや同社成長の原動力となっている。

姫路から北西へ7キロメートル、のどかな田舎地帯が広がる静かな街に、航空機や発電機用タービン部品など、特殊処理を必要とする金属部品の製造を主力事業とする金属技研のGiga-HIP装置が導入された。スウェーデンの海路を走る船で運ばれてきた。

特殊処理部品の製造で顧客の課題解決に挑む

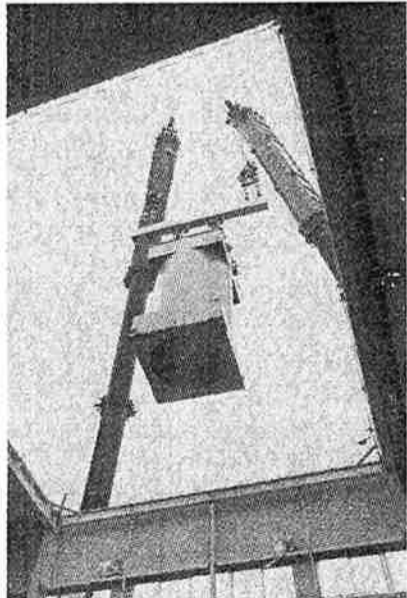
世界トップレベルの金属処理技術で、モノづくりを支える金属技研(東京都中野区03-5365-3050)。主力の姫路工場では、国内外から高い注目を集める大型プロジェクトが進行中だ。それは世界最大規模のHIP(Giga-HIP)熱間静水圧プレス装置の導入。金属材料の焼結や金属同士の接合、鋳造品の内部欠陥の除去、HIP装置だが、近年は大型部品の処理需要が高まっている。今回の装置導入は、2010年1月の稼働を控え、大規模の設備作業が進む姫路工場(兵庫県姫路市)に最先端設備の最新鋭を訪ねた。



航空機や発電機用タービン部品など、特殊処理を必要とする金属部品の製造を主力事業とする金属技研のGiga-HIP装置が導入された。スウェーデンの海路を走る船で運ばれてきた。

工程短縮でコスト削減 溶接不要で品質も向上

「the metal solution」をキーワードに、特殊な処理を必要とする金属部品の製造で顧客企業の課題解決に挑む金属技研が、HIP事業に乗り出したのは84年。HIPは高温高圧ガスを媒体としたプレス装置で、金属粉末の焼結や溶接が困難な金属同士の接合、鋳造品の内部欠陥の除去などに用いられる。過酷な環境で使用される部品製造には欠かせない重要な工程だ。



その同社がGiga-HIPという新たな領域に踏み出すことになったのは、顧客企業からの大型部品のHIP処理ニーズ。なかでも、電子部品の大型化が加速的に進むという状況下で、顧客企業からの大型部品のHIP処理ニーズが急増している。

量産体制確立、独自技術に磨き

今回のGiga-HIP装置導入は、金属技研の成長戦略においても大きな意味を持つ。世界最大サイズを生かし、海外需要を幅広く取り込めることが、今後の成長の鍵となる。Giga-HIP装置は、航空機部品用製造品の欠陥除去にHIP技術が用いられることが多く、大型装置による加工需要は潜在的に大きいと見られる。

インタビュー

姫路工場長 川副達彦氏に聞く



大型部材加工で内外需要獲得

08年の国際HIP会議(米国・カリフォルニア)で、金属技研がGiga-HIP装置導入計画を発表して以来、業界関係者の注目を集めてきました。ようやく全容が明らかになりましたが、稼働までの見通しを教えてください。

「現在、据え付け工事の真っただ中です。09年末か2010年初旬にかけて試運転など最終調整を行い、1月中旬の稼働を目指しています。」

「Giga-HIP装置が姫路工場に導入されることになった理由は、近隣に有力な顧客企業が多いこと。そして工場の中で(装置導入に伴う)拡張の余地が大きかったこと。もちろん、装置そのものや加工部材を海上輸送するうえで神戸港から近いといった地理的な理由もあり、当社にとって過去に前例のない長期かつ多額の投資を要するプロジェクトです。」

「顧客メ리트のみなさん、金属技研にとってGiga-HIPを手にしたことは、今後の成長戦略において重要な意味を持ちます。」

「従来HIP案件は航空機や発電機用タービンなど新規受注が見込めるのは、このように進んでいます。」

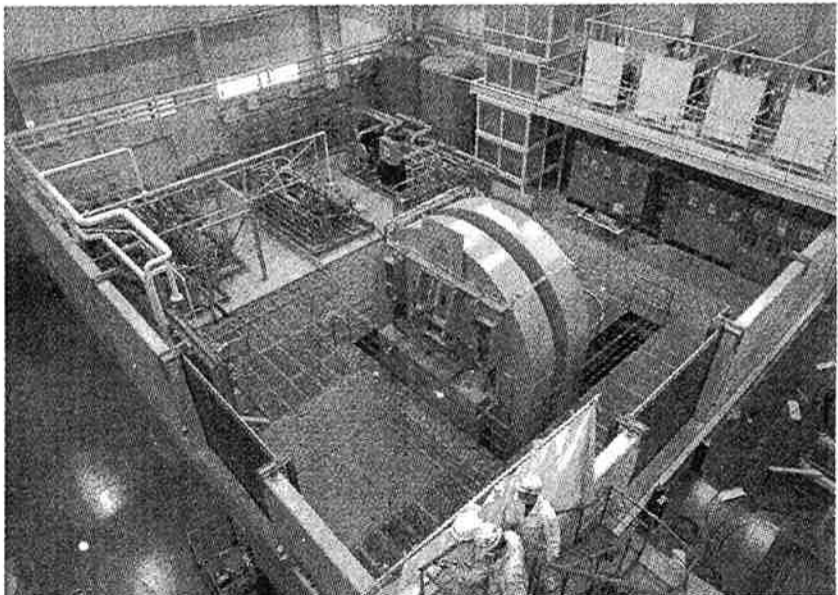
「社内体制の整備はどのように進めていますか。」

「全社取り組みとして今年4月にGiga-HIP事業推進室が発足しました。海外での新規受注獲得や情報収集といった営業活動のほか、稼働環境整備や技術面での体制を確立するのを目指しています。」

「世界最大規模の設備を誇る同社が、海外から高い注目を集める大型プロジェクトが進行中だ。それは世界最大規模のHIP(Giga-HIP)熱間静水圧プレス装置の導入。金属材料の焼結や金属同士の接合、鋳造品の内部欠陥の除去、HIP装置だが、近年は大型部品の処理需要が高まっている。今回の装置導入は、2010年1月の稼働を控え、大規模の設備作業が進む姫路工場(兵庫県姫路市)に最先端設備の最新鋭を訪ねた。」

「Giga-HIP装置は、航空機部品用製造品の欠陥除去にHIP技術が用いられることが多く、大型装置による加工需要は潜在的に大きいと見られる。」

「今回のGiga-HIP装置導入は、金属技研の成長戦略においても大きな意味を持つ。世界最大サイズを生かし、海外需要を幅広く取り込めることが、今後の成長の鍵となる。Giga-HIP装置は、航空機部品用製造品の欠陥除去にHIP技術が用いられることが多く、大型装置による加工需要は潜在的に大きいと見られる。」



HIP装置を上から撮影

上下写真ともHIP装置の搬入の様子